

# まちのキラリびと

## 神楽べっぴん会データ

■発足 2017年1月  
 ■会員数 13人  
 ■SNS



Facebook LINE(商店街)

### 神楽べっぴん会

会長 中道 尚子さん



会長は前列右から2人目



▲はばたく商店街30選受賞報告の様子



▲打ち合わせの様子

## 女性の目線で神楽を楽しく元気に

「神楽べっぴん会」は、神楽町1丁目商店街のおかみさんたちの集まりで、5年前に発足しました。

これまでに「朔日市」「けひさんアートマルシェ」「まちゼミ」「餅花飾り作り」などに取り組み、女性ならではの目線・企画で神楽を盛り上げています。

「活動自粛中、お互いの気持ちを共有できた。そして、目の前のことから中長期的な取り組みまで、じっくり検討した。べっぴん会という相談し合える仲間たちがいたことで、一歩踏み出すことができた」。

会長の中道尚子さんは、環境が大きく変わったコロナ禍を通じて、より強い繋がりができたと振り返ります。そして、商品開発や売り方などもメンバー同士で話し合うようになり、神楽バッグの作製やSNSの活用、ネット販売などお客さんへの新しいアプローチにも力を入れています。

こうした取り組みが評価され、昨年12月に神楽町1丁目商店街が、経済産業省より令和3年度の「はばたく商店街30選」に県内で唯一選ばれました。地道に取り組んできた活動が一つ実を結んだと中道さんは笑顔で話してくれました。

「北陸新幹線敦賀開業を2年後に控え、地域の方にも、観光客の方にも氣比さんのお膝元であるここ神楽の魅力を発見してもらえるように頑張りたい」と女性たちは、今日も元気にお店に立っています。

## まちの宝を発見！ つるが歴史遺産



草刈りしたので古墳がはっきり見えます！

案内人 学芸員 中野 拓郎

### ▼古墳内の製塩土器など



### 基本情報

種別：敦賀市指定史跡  
 所在地：堂（道口10-47）



### 衣掛山1号墳

## 特別な海の塩・潮

岡山の交差点から国道8号を南へ進んで行くと、J Rをまたぐ跨線橋の手前に東へ曲がる道があります。その道は車1台分の幅しかない細い道で、笹の川を渡って水田の中を進んでいくと、道沿いに直径約10mの小山があります。これが衣掛山1号墳です。

この付近の水田を昭和63年に整備する際、20基以上の古墳が見つかりました。今も1号墳以外の古墳は盛土をかぶせて水田の下に保護されています。今、1号墳の頂上に見えている長さ約3m幅約2mの石は、地下にある石室の天井石で、古墳内部に石組みの大きな空間が作られていると考えられています。

この衣掛山古墳群の出土品中で特徴的なものに製塩土器がありました。この土器は塩を運ぶ容器ではなく、海水を煮詰める道具なのですが、これがなぜ海から遠く離れた場所の古墳にお供えされていたのでしょうか。このことは当時の敦賀において、海辺の人は海水を煮詰め、山際の人は燃料や道具を作るといのように、敦賀全体で分業して塩が生産されていた可能性を示しています。

西暦720年に完成したとされる『日本書紀』には、天皇家は敦賀産の塩しか使わないという話が載っています。衣掛山古墳群が作られたのは古墳時代後期、西暦600年前後の時期ですが、その当時から日本海、特に敦賀の塩は、特別な贈り物だったかもしれません。

### 広報担当者のつぶやき

P4の新幹線駅舎工事の特集記事の関係で、駅舎内部を案内していただきました。仮設の階段で上家まで上がると息は切れるわ、汗だくなるわで運動不足の私には大変でした。しかしながら、「空に浮かぶ」という駅のコンセプトのとおり、市街地や港を見渡せる絶景で心が洗われるようでした。(K)

気づけばもう3月。進学や就職、異動や転勤などで、職場環境や住環境などの生活が大きく変わる時期となりました。私もそろそろ異動では…とそわそわしております。春は環境の変化によって、メンタル不調に陥りやすいともいわれているので、意識的に睡眠や食事をしっかりとって入念にセルフケアしましょう。(M)